

放課後子ども教室 第4回スキルアップ教室



子どもの読書活動支援者のための研修会(県北研修)

平成25年2月15日(金)

In 玉井子ども教室【大玉村】

『第4回スキルアップ教室』及び『子ども読書活動支援者のための研修会』を大玉村「玉井子ども教室」(あだたらふるさとホール)で実施しました。今回の研修では、講師に後藤みづほ氏を迎え、「民話」を通して子どもたちと触れ合うことの意義について学びました。

講義・演習「おはなし会の一工夫」 講師 後藤みづほ 氏



- ・おはなし会のねらいは、言葉の力を育てること、本に親しんでもらうこと、話すことを通して五感を養うことである。
- ・子どもにはやさしい声を聴く権利がある。大人はその義務をを果たさなければならない。
- ・民話とは「土と向かい合って暮らしてきた先祖たちが残した汗と笑いや涙を煮詰めた一滴」「方言で語られる地域の伝承文化」である。
- ・民話が主役であり自分たちが主役ではない。私たちは次世代に民話を言葉として伝えていく役割を担っている。
- ・民話からとられた絵本がたくさんある。民話の語りも絵本の読み聞かせも別のものではない。1つの役割を両方が担っているのである。

実演「玉井放課後子ども教室」にて



- ・あだたらふるさとホール歴史資料館のいろりを囲んで、玉井子ども教室の子どもたちに「民話」を語った。
- ・「三枚のお札」など数作品を披露した。子どもたちは聴いたことがあると言いながらも目をキラキラさせて聞き入っていた。
- ・会場の雰囲気とともに、参加者全員が民話の世界に引き込まれていった。

【参加者から】

- ・やさしい語り口で聴く者の心を温かくしてくれた。感動した。
- ・自分たちが今まで携わってきた活動の意味を再確認できた。
- ・自分たちのサークルでも民話を積極的に取り入れていきたい。
- ・心温まる、やさしくなる、穏やかな時間を過ごすことができた。
- ・民話を通して子どもの心の育て方、語り・絵本の同様さを確認できた。
- ・やさしい語り方と心にしみる声が、体にすうっと入ってきて気持ちよい時間だった。



講師の後藤みづほさんには、民話の役割や言葉の大切さなど様々なエピソードを交えながらお話しいただきました。もっと後藤さんの語りを聴きたいという声が多く聞かれ、参加者全員が民話を堪能しすっかり魅了されました。開催にあたり御協力をいただきました大玉村教育委員会をはじめ関係者の皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。